

無畏  
「むい」

彦根翔陽高等学校

彦根翔陽高等学校の部旗には「無畏」の二文字が染められています。

この言葉は『観音経』などにも出てくる仏教の言葉で「真理について正しく知り、確信をもって語り、なんら不安・疑惑が存在しないこと」（禅学大辞典 大修館書店）という意味です。つまり、畏（オ）れや迷いなど心に起こる動揺を克服しながら努力を重ねた修行者がたどり着いた悟りの境地のことを言っているのだと思います。唐の初めの永嘉玄覺（ヨウゲンカク）禅師の著書『證道歌（ショウドウカ）』に「獅子吼えて無畏を説く 百獣之を聞き皆脳裂す」という文があります。つまり「この無畏の境地は、百獣の王の獅子が他のいかなる動物をも畏れないのと同じようなものである」と述べているのです。

私たちの学ぶ剣道にも心に起こる恐れなどを戒める「四戒」という言葉があります。

【驚】（キョウ＝予期しない事態に驚くこと）【懼】（ク＝相手をおそれる恐怖心）【疑】（ギ＝相手の気持ちや行動を疑うこと）【惑】（ワク＝心の迷い）の四つの心の働きによって動揺をしないよう戒める言葉で、「無畏」に通じるものです。試合に敗れた時のことを振り返りますと、自分に心の中に【驚】【懼】【疑】【惑】というような動揺が必ず起こっていると思います。どうすれば動揺しなくなるのでしょうか。「それは稽古に稽古を重ねることしかない」とこの部旗の「無畏」の二文字は語っているように思います。

彦根翔陽高校は平成10年に総合学科の高校として新しい歩みを始めますが、そのとき剣道部も再結成され、顧問の神崎善明先生が、平成12年に彦根市剣道連盟の尾本錠司先生のアドバイスを受け、当時国語を教えておられた村中隆之先生に揮毫してもらいこの部旗を作成されたと聞き及んでいます。